

[分類]	普及技術
[成果名]	キュウリべと病防除にジャストフィットフロアブルが有効である
[要約]	キュウリべと病防除にジャストフィットフロアブルの 5,000 倍液を散布する。
[担当]	野菜花き試験場環境部、農業技術課
[部会]	病虫部会

### 1 背景・ねらい

きゅうりの栽培上、べと病はいずれの産地でも常発する重要病害である。特に露地栽培では多雨時に急速に発病が進展して、きゅうり生産に大きな影響をおよぼす。そこで、キュウリべと病に登録のあるジャストフィットフロアブルのきゅうりに対する有効性を普及技術として提案し、きゅうりの安定生産を図る。

### 2 成果の内容・特徴

(1) キュウリべと病防除にジャストフィットフロアブルの 5,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

ジャストフィットフロアブル

[一般名及び成分含有量] フルオピコリド 33.0% (FRAC コード<sup>注)</sup>:43)、  
ベンチアバリカルブイソプロピル 12.0% (FRAC コード<sup>注)</sup>:40)

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] フルオピコリド：B類（成分）、ベンチアバリカルブイソプロピル：A類（成分）

[対象作物に対する適用登録状況（平成 27 年 1 月 20 日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルオピコリドを含む農薬の総使用回数	ベンチアバリカルブイソプロピルを含む農薬の総使用回数
きゅうり	べと病	5,000 倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内	3 回以内

本試験は純粋に殺虫剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布回数は適用登録の回数を超えた。

注) FRAC コードとは FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会）が定める殺菌剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は農薬工業会のホームページ (<http://www.jcpa.or.jp/lab/mecanism.html>) を参照する。

### 3 利用上の留意点

- (1) 本剤は治療効果を有することから発病後での治療効果も期待できるが、薬剤耐性菌の出現防止と安定した防除効果を得るため、発病前からの予防的散布を心がける。
- (2) 本剤は、べと病菌に対してそれぞれ卓効を示すフルオピコリド（アシルピコリド系）とベンチアバリカルブイソプロピル（アミノ酸アミドカーバメート系）との混合剤であるが、耐性菌の出現を防ぐため連用、多回数使用を避け、作用機構の異なる薬剤とのローテーションによる使用とする。

### 4 対象範囲

県下全域、きゅうり栽培面積 405ha

### 5 具体的データ

- (1) ジャストフィットフロアブルのキュウリべと病に対する試験を野菜花き試験場内ほ場（長野市）で実施した。平成17年は中発生条件下の試験となった。本剤の5,000倍液は、対照薬剤のダコニール1000の1,000倍液と比較して同等の効果が認められ、無処理と比較して高い防除効果が認められ

た。薬害は認められなかった（表1）。

表1 キュウリべと病に対するジャストフィットフロアブルの防除効果  
(平成17年、野菜花き試験場)

供試薬剤	希釈倍数	調査葉数	発病葉率 (%)	発病度 <sup>a)</sup>	防除価 <sup>b)</sup>	薬害
ジャストフィットフロアブル	5,000	100.0	4.7	1.2	97.5	なし
ダコニール1000	1,000	100.0	11.0	3.3	93.2	
無処理		100.0	83.3	48.6		

a) : 発病度 =  $\Sigma$  (発病指数 × 葉数) × 100 / (4 × 調査株数)

程度別発病指数 0 : 発病を認めない、1 : 病斑がわずか(数個)に認められる、2 : 病斑が葉面積の25%未満、3 : 病斑が葉面積の25%~50%未満を占める 4 : 病斑が葉面積の50%以上を占める

b) : 防除価 = (無処理区の発病度 - 処理区の発病度) × 100 / 無処理区の発病度

試験場所：野菜花き試験場 場内露地圃場(長野市松代町) 品種：「南極1号」 定植：5月17日

区制・面積：1区2.0㎡ 10株/区 3反復 対象病害の発生状況：中発生

処理方法：6月21日、28日、7月5日および12日の4回、所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。

調査方法：7月19日に各区の全株の中位葉10葉(合計100葉)について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

(2) 高森町で実施した試験では少発生条件下の試験となった。本剤の5,000倍液は、対照のランマンフロアブル1,500倍液とアミスターオプティフロアブル1,000倍液の体系防除と比較して同等の効果が認められ、無処理と比較して高い防除効果が認められた。薬害は認められなかった（表2）。

表2 キュウリべと病に対するジャストフィットフロアブルの防除効果  
(平成26年、下伊那農改)

供試薬剤	希釈倍数	調査葉数	発病葉率 (%)	発病度 <sup>a)</sup>	防除価 <sup>b)</sup>	薬害
ジャストフィットフロアブル	5,000	100.0	1.0	0.3	91.4	なし
ランマンフロアブル アミスターオプティフロアブル	1,500 1,000	100.0	0.8	0.3	91.4	なし
無処理		100.0	10.2	3.5		

a)、b) : 表1と同じ

試験場所：高森町 現地施設圃場 品種：「おおのぞみ」 定植：4月21日

区制・面積：1区33.2㎡ 32株/区 2反復 対象病害の発生状況：少発生

処理方法：試験薬剤は7月16日、23日の2回、対照薬剤のランマンフロアブルは7月16日、アミスターオプティフロアブルは7月23日に所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。全区に各薬剤には展着剤グラミンSの10,000倍を加用した。

試験開始前の7月5日に、うどんこ病とべと病防除のため、全区にダコニール1000の1,000倍液を散布した。

調査方法：8月6日に各区中位葉100葉を2カ所について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きおよび畑作物の新規農薬等の効果試験、平成17年度(2005年度)、民間受託  
野菜・花きの病害虫に関する素材開発研究、平成26年度(2014年度)、県単素材開発